

火山災害に備えて

もしも浅間山が噴火したら！

火山灰(降灰)

細かく砕けたマグマや岩石が空高く吹き上げられ、風に乗って広い地域に降る。

- 火山灰が舞っているときは、マスクやゴーグルを付ける。
- 洗濯物や窓の開け閉めに、注意する。
- 火山灰が降り積もった地域では、路面等が滑りやすいので、車の運転に注意する。

降灰直前は…

- 灰が侵入しないようドアや窓を閉める。
- 濡らせたタオルをドアの隙間などに置き、窓の隙間にはテープを貼る。

降灰が起きたら…

- 屋内で待機する。外にいる場合は、建物や車の中に避難し、テレビやラジオで情報を収集する。
- コンタクトレンズを外す。
- むやみに移動しない。

空振

噴火のときの爆発で、火口から発生する空気の振動(衝撃波)。

- 火口から離れていても気象条件によっては、広範囲に影響が予想される。
- 山側のガラスから離れる。また、補強などの対策をする。

融雪型火山泥流発生時の避難の心得

- 沢筋や低地など、より注意が必要な場所では、早めに避難する。(自らの判断に基づく自主避難)
- 危険箇所を避け、泥流の流れに対し直角方向の高い場所に逃げる。
- 近くに高い場所がない場合は、丈夫な建物の高い部分(2階以上)に避難する。
- 泥流が近くまで迫っている場合は、野外には出ず建物の2階以上に避難する。

地震に備えて

そのときどうする？

自分や家族の安全を守るためには、地震が発生しても、あわてずに行動できるかがポイントになる。いざというときにパニックにならないように、地震発生から3日間の標準的な行動パターンをしっかりと覚えておこう。

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まずは落ちついて、自分の身を守る

机の下などにもぐり、倒れてくる家具や、割れるおそれのある窓ガラスに注意する。外にいるときはかばんなどで頭を守る。

2~5分

揺れがおさまったら…

- 火元の確認・初期消火 ■ドアや窓を開けて、逃げ道を確保
- 靴をはく ■ガラスの破片などから足を守る。
- 出火防止を ■ガスの元栓を閉める。電気のブレーカーを切る。

5~10分

- 家族の安全を確認 ■ラジオなどで情報を確認 ■震度速報は地震後2分程度で発表される。
- 周囲の様子を確認 ■余震に注意
- 家屋の被害状況を点検 余震で被害拡大のおそれがあれば、避難の準備
- 非常持ち出し品の用意

10分~半日

■隣近所の安全を確認

隣近所に声をかけ、互いの安否を確認する。特に、高齢者や障がい者などの要配慮者のみの世帯には積極的に声をかける。

■消火・救出活動

隣近所で協力して消火や救出を。自分たちの手に負えない場合は、消防署、警察署へ通報する。

■子どもを迎えに

保育園や小・中学校に子どもを迎えに行く。自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。

■周囲に危険が迫っている場合は速やかに避難を

火災・土砂災害・建物倒壊など、災害の状況に応じて避難を。避難時は、ブロック塀や倒れかけた家屋などに注意する。市街地では、避難に車は使わない。

■自宅や地域の安全が確認できるまで警戒を

ラジオやテレビなどで正確な情報入手

■生活必需品は備蓄でまかなう

災害発生から3日間は家庭での備蓄でしのぐ。

■避難生活では、集団生活のルールを守る

半日~3日

風水害に備えて

大雨が降り出したら

- 地域の防災情報に注意し、近くの川の水位上昇にも注意する。
- がけ地や河川の近くでは、隣近所で声をかけ合い、早めに避難の準備をする。
- 地域の水防活動に協力する。

洪水の時の避難方法

川の流れ・土砂流に対し直角に逃げる

近くに川が流れている場合、川が決壊したときに濁流に巻き込まれるおそれがある。洪水や土砂流が発生する前に逃げるのが基本だが、万が一遭遇した場合には、洪水や土砂の流れる方向に対して直角に、少しでも高い場所へ逃げる。

時間がない場合は垂直避難を

災害時、身に危険が迫っているが、安全な場所まで避難する時間がない場合に、建物内のより高い場所に向かって避難することを「垂直避難」という。屋内にとどまっていた方が安全な場合やむを得ないときは、屋内の2階以上の場所、斜面と反対側の部屋に避難する。

むやみに歩かない

浸水した道路は、水面下が見えず多くの危険が潜んでいる。段差に足をとられて転倒したり、誤って水路に転落したりするおそれがある為、避難する時は、浸水している道路は避けて通行する。また、浸水が始まる前に早めに避難することを心がける。

土砂災害の種類と前ぶれ

崖崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、急激に斜面が崩れ落ちる現象。突発的かつ急速におこることが多いのが特徴(前ぶれ)

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- 崖から水が漏れてくる。
- 崖にひび割れができる。

土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。昔から「山津波」とか「鉄砲水」といって恐れられている。

- 山鳴りや木立の裂けるような音、ふだん聞かれない大きな音がする。
- 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が流れてくる。

地すべり

すべりやすい地層を境に、その上の土がそっくり動き出す現象(前ぶれ)

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 崖や斜面から水が噴き出す。

※平成29年1月現在、軽井沢では「地すべり」の対象地域の指定はありません。

注意したい場所は？

山里に近い集落付近

集中豪雨や地震による山崩れに用心する。山間部の集中豪雨からの土砂流にも要注意。危険を感じたら早めに避難の準備を。

小川や水路よりも低い土地

小さな河川であっても、ごみなど思わぬ障害物であふれる危険性がある。ご近所の皆さんで定期的に掃除するように心がける。

火災に備えて

そのときあなたは

早く知らせる

①「火事だーッ」と大声で叫ぶ!!

②動転して声が出なかったら、やかんやなべなどをガングラムたいて、近所の人たちの助けを求める。

■いざという時に備えて自宅の電話のそばに119番通報メモをはっておく。

■あわてずにはかきめつてから通報する。

■通報するときは「あの、その、早く早く!」では困る為、正確に住所と名前を伝えよう。

早く消す

火の小さいうちに、勇気をもって初期消火に当たる。

①消火は出火から3分以内が勝負。炎をおそれず勇気を出して、落ちていて初期消火をする。

②初期消火とは、火が天井面に移る前に消火すること。

(消火器は下から、水・ワックスは上から消火する)

③消火に使えぬは消化器や水だけではなく、身近なものを何でも活用して、素早い対応を。

早く逃げる

避難は早く安全に。

①天井に火が燃え移ったら、素人の手には負えない。的確に判断して、早めに避難する。

②避難するときは、できるだけ燃えているところの窓やドアを開ける。

119番通報のしかた

落ちていて、次の要領で通報してください。

①「火事です」

——火災であることを知らせる。

②「軽井沢町○○○、

○番地の○○太郎です」

——住所と氏名を伝える。

③「自宅が燃えています」

——2階建ての木造住宅です」

——建物の種類と

何階建てかを知らせる

④「目標は○○郵便局の

向かい側です」

——火災現場付近の

目標になる建物を伝える。

携帯電話から通報の場合

●携帯電話からの通報であることを告げる。

●通報場所が不明の場合は、電柱等

で所在、目標を確認して通報する。

●通報後10分くらいは電源を切ら

ない。(消防署から問い合わせのため呼び出すことがある)

memo

覚えておこう! 災害時の連絡方法

携帯電話「災害用伝言板」

大規模な災害が発生した場合、NTTドコモの「iMenu」、auの「EZ web」、ソフトバンクの「Yahoo!ケータイ」のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否情報を登録することが可能になります。

登録された伝言については、インターネット接続が可能なパソコンや他社の携帯・PHSからも下記のURLで参照できます。



NTTドコモ



au



ソフトバンク

NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

災害用伝言ダイヤル「171」

安否確認電話が集中した場合、サービスを開始します。

伝言の録音

伝言の再生

① ☎171 へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。

2 1

市外局番+電話番号

3

市外局番+電話番号

軽井沢町の防災行政無線の放送内容を電話で確認できます

町の防災行政無線から放送した内容を放送後に電話で確認することができる『防災行政無線電話応答サービス』をおこなっています。

防災行政無線電話応答サービス電話番号

0800-800-1325

(いざいづも)